

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291800116		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	SOMPOケア東金小規模多機能		
所在地	千葉県東金市堀上8-1		
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和3年 8月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和 3 年 7 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設は2008年11月。10年以上勤続の職員も在籍している、歴史ある事業所です。
 事業所として目指していることは、3つあります。
 1つ、利用者様の利用者様らしい生活をお手伝いさせて頂くこと
 2つ、職員が、明るく、仲良く、楽しく、働ける職場であること
 3つ、地域に根差し、地域交流の盛んな事業所であること
 ご興味を持って頂いた方のご相談、見学、同じ想いを抱いて頂いた方のご応募、心よりお待ち申し上げます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者として2年目を迎え、この1年間はコロナ下での利用者の感染防止に配慮した支援に明け暮れた。この間利用者の半数が重度化により他施設に移り、新たな利用者が利用開始されて、自立度の高い方が増加している。その為に管理者は職員との話し合いを重ね、忙しいから出来ないとは言わないことをモットーにして、利用者の意思と能力を尊重し、見守りによる支援に務め、アンケートでも感謝の言葉が多い。管理者はこれまでの複数施設の経験をもとに、小規模多機能という幅広いサービスの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	事業者様で記入 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	3年度外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の現状に合わせて、臨機応変に対応できていると思います。	玄関及び控え室に法人グループの経営基本方針(経営理念・ビジョン・行動指針)及び、SOMPOケア理念「お客様の安心・安全・健康の生活をサポートします」等が掲示されている。事業所会議や支援中に全員で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響が大きく、緊急事態宣言以降は、地元での交流会自体が、開催されておりません。	自治会に加入しているが、この1年間はコロナ禍で地元での交流会は全て中止、ボランティアの来訪も無い。交流会が再開されれば積極的に参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記内容のように、積極的な活動ができておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染拡大防止の観点から、開催自体を見合わせております。	コロナ禍のために事業所の職員のみで、年6回書面開催しその議事録を市役所へ持参し、従来からの参加者へも送附している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは、特に協力関係を築けていると思います。	新しい利用者の多くが地域包括支援センターからの紹介が多く、センターとは日常的な付き合いが有る。支援センター職員が丁寧に対応して頂くので、定期的に訪問し報告・相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて、身体拘束のない援助が実践できております。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、実践状況を確認している。併せて法人として事業所内コンプライアンス研修(虐待防止・身体拘束廃止・メンタルヘルス)受講が義務付けられている。拘束事例は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修で学び、万が一の際には、社内に相談窓口が設置されております。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみに留まっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得られております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様と、管理者、職員の中は良好で、意見を伺い、運営に反映しております。	利用者の送迎時、服薬支援の訪問時に家族からの意見を聞いている。利用者は自立度が高い方が多く、支援の時間等に要望・意見を聞き、支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者宛には相談窓口が設置されており、管理者は、日々の業務で職員からの意見を重要視しております。	法人として直接職員からの相談や要望を本部へ伝えられる仕組みがある。管理者は何でも話せる職場雰囲気を作りあげており、支援の時間や職員会議、人事考課面接時を通じて職員の意見を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次評価や、タレントパレットといったツールにて、整備されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に、毎月の研修に力を入れて、運営しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の研修会にも、積極的に参加するようにしております。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の気持ちに寄り添うことを、一番と考えております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様が一番と考えておりますが、ご家族様のご支援を含めて、ご本人様のご支援になると考えております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所会議では、適切な援助が難しいとアセスメントした場合は、他法人、他業態のサービスでも、ご提案させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にも、可能な限りで業務を手伝って頂き、暮らしを共にするように運営しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、ご家族様ともに、よく話し合い、関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めさせて頂いております。	現在の利用者は自立している方が多い。事業所での宿泊利用と慣れ親しんだ自宅での生活支援の両面のサポートをしつつ、本人の慣れ親しんだ場と人との関係が継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様にもご協力して頂き、ご支援させて頂いております。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人様、ご家族様の経過をフォローさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独特の希望や意向にも、安全面に配慮しながら、寄り添っております。	地域包括支援センターからの情報や居宅介護支援事業所のケアマネジャーの資料を元に初回面談時に本人と家族から希望と要望を聞いている。サービス利用中に本人から聞くことが一番多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様らしさを一番に、サービス利用、経過の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画、難しい場合は、ご本人様の希望に沿って、折衷案を取り入れる様にしております。	月に一度の事業所会議で職員から意見を聞いており、利用者の状況に応じて適宜家族と電話で相談しニーズの把握に務めている。介護計画書は当事業所オリジナルで、利用者が読んで分かるようシンプルなものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社のプライベートサービス等も取り入れ、柔軟に対応しております。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	シルバー人材等の活用を実施しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援しております。	かかりつけ医の受診時は家族が同行している。緊急時の医療が必要な場合には職員が連れて行く。宿泊している利用者の精神科受診時には医師から職員が一緒来るよう要請があり同席して情報の提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に合わせて、他職種との連携も行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、退院時カンファレンスへの参加で、関係性作りを積極的に行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご本人様、ご家族様と相談し、自社以外のサービスも合わせて、話し合いを行っております。	終末期と看取りの研修は行われているが看取りはしていない。介護保険サービスを利用するのが初めてで自立度が高い方が多く、利用契約時には理解が困難な為、最近では段階を経て必要に応じて話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は研修で行っておりますが、実践する機会が極めて稀なため、実践力の検討は難しい状況です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、地域の情報共有を定期的に行っております。	年に2回災害時の自主避難訓練を行っている。食料品と水の備蓄が3日分あり、災害用発電機を設置している。近々市の地域における「災害時緊急避難所」に登録されることになっている。	災害時緊急避難所に登録後は自治会長や民生委員等に事業所紹介をさせてもらう、事業所消火訓練時に住民に参加して頂くなどで、普段から地域との協力関係が築けることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉使いは、乱れてしまっている時があり、大変申し訳なく思っております。</p>	<p>車椅子に座っている利用者には職員が上から見下ろさずにしゃがんで視線をあわせて話すようにしている。利用者の来所時と退所時に職員がきちんと挨拶することを大切にして利用者の人格を尊重する対応を心がけている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご本人様の希望、自己決定を一番にご支援させて頂いております。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人様のペース、希望を一番にご支援させて頂いております。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身だしなみにも、ご本人様らしさを一番にご支援させて頂いております。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お食事の準備は、衛生面の観点から、職員のみで行っております。</p>	<p>衛生面と栄養を考慮したSONPOケアフーズの調理済み冷凍パックを温めて、事業所で調理した味噌汁とご飯と一緒に提供している。食品は食べやすく程良い大きさに食事を楽しむ支援がされている。在宅の利用者にも事業所と同じ食事を弁当にして届けている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスは、給食会社により管理されております。また、個別の状態に合わせて、別途、ご支援させて頂いている利用者様もいらっしゃいます。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔内の清潔維持も、個別性を持って援助させて頂いております。</p>		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、排泄自立に向けて、ご支援させて頂いております。	現在の利用者は自立度が高く(平均介護度1.6)ほとんどの方がトイレでの自立排泄がなされており、食事と水分の把握をして健康面の支援をしている。おむつを使用している利用者には衛生面とプライバシーを配慮して排泄表をもとに支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬での対処が多く、飲食物の工夫、運動への働きかけは、十分にはできておりません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、事業所の都合の時間でご支援させて頂いております。	機械浴槽室と一般浴槽室の2か所があり、一人ずつ入浴し、お湯はその都度入れ替えている。現在、寝たきりの利用者本人の希望で職員が二人対応で一般浴槽室での入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関しては、ご本人様のご自由な時間で睡眠頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は小まめに状況把握を行い、医師に情報共有させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様、一人一人に合わせて、ご支援させて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響が大きく、令和2年5月、初の緊急事態宣言以降は、外出支援は、散歩や買物等の必要最小限の援助にとどまっております。	コロナ禍の中、以前のように外出支援が困難な状況である。通所サービス利用後の送迎時に突然スーパーに立ち寄る利用者の為に送迎時間を最後にして対応できるよう工夫をするなど出来る範囲での支援に務めている。	事業所としてコロナ禍における運動支援のやり方などを、家族・利用者に具体的に説明することも検討願いたい(アンケートの要望より)

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご理解力が極めて低下した利用者様以外は、ご本人様が管理されております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望に沿って、ご支援させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境への意識、清掃には工夫を凝らしております。	明るいリビングを中心に、トイレ、浴室、居室が分かりやすく、くつろげるようにソファも置かれているなど、小規模多機能の機能に配慮されたレイアウトとなっている。リビングに運動専門講師による「リハビリ体操」の案内や、誕生日会のポスターを掲示するなど楽しい雰囲気を生み出す工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になれる場所、共有できる場所をご用意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊スペースは、固定ではないため、共用部として、個性は設定できておりません。	各室に介護ベッドがあり、夜間にトイレへ行く時の動線と安全性を考えて設置されている。ショートステイが目的のため衣類等だけの持ち込みになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺等を設置して、安全に自立できる環境となるように努めております。		